

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100366		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家青谷		
所在地	鳥取県鳥取市青谷町亀尻163番地1		
自己評価作成日	令和4年 1月 10日	評価結果市町村受理日	令和

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あいおらいと		
所在地	鳥取県鳥取市気高町浜村342番地		
訪問調査日	令和4年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を感じられる行事を取り入れ、全員参加して頂いている。 ・御利用者様の自立支援を職員間で共通認識して、サービス提供を行うように努めている。 ・運営推進会議・避難訓練・レクリエーション等に地域の方に参加していただいたり、地域の方々の意見・要望を施設運営に反映出来るように努めている。 ・地域の行事や奉仕作業等には積極的に参加している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所はのどかな住宅地に位置し、周辺の住民と挨拶を交わす機会も多くあります。また、日常的に野菜等の差し入れもあり地域との良好な関係が築かれています。事業所では、利用者の意向を尊重したケアに取り組んでいます。外出については、これまで地域の行事等に参加していましたが、現在、コロナ感染防止に留意しながら、できるだけ戸外へ出かけるようにしています</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえて、事業所で作成した理念を事業所内に掲示し、朝礼時に唱和共有し、日々のケアに繋げている。	事業所理念は、玄関口横の共有スペースにわかりやすく掲げられ、毎朝、職員で復唱しています。しかし、現在の理念は職員の理解がすすまないこともあり、今後、理念の再検討を行う予定です。	今後、理念について職員全員で話し合い、事業所独自の地域密着型サービスの目的に沿った理念となるよう検討に期待します。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃作業(草刈り)や年始行事のとんどへ参加し交流の機会を設けている。また、事業所の避難訓練に自治会長へ依頼し、参加して頂いた。コロナ感染予防の観点から、大々的な地域との交流は控えている。	これまで地域行事への参加や米や野菜の差し入れなどが日常的に行われています。また、停電のときは安否の電話や施設の様子を気にかけていただくなど地域と密接な関係があります。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、行政機関や地域の方に参加して頂き、事業所の取り組みやサービスを説明し、認知症の方への関りを理解して頂くと同時に、より良いサービス提供が出来るように意見を頂いている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を開催してサービス提供や事業所の取り組みを説明し、意見を頂いている。また頂いた意見をサービス向上に繋がるよう職員で共有し、ケアに役立てている。	運営推進会議では、事業所の取り組みや現在の様子を報告しています。また、意見や助言をいただきながらサービス向上につなげるよう取り組んでいます。しかし、運営推進会議の内容について職員への周知が十分ではありません。	今後、他の職員も会議に参加し運営推進会議での意見や助言を把握し、支援に活かしていくことを期待します。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鳥取市青谷町市民福祉課の方に運営推進会議で助言を頂いたり、事業所の情報提供を行っている。今年度はコロナウイルスの予防接種会場としての情報頂き、利用者家族と連携を取って、予防接種の日程調整を行うことができた。	運営推進会議では、コロナウイルスの予防接種会場の情報や生活保護の利用者の相談などを行い連携が図られています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内や法人全体での研修等で定期的に身体拘束についての研修を行い、日々のケアで身体拘束の無いケアに向けてサービスが出来るよう取り組んでいる。玄関はチャイムが鳴るようにして施錠せず、行動抑制せず認識できるよう工夫している。	年1回、法人全体で虐待研修を実施し、事業所内では、職員が順に講師となり、3ヶ月に1回身体拘束に係る研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内や職員全体での研修で、虐待について定期的に話し合い、全職員で意識の向上に取り組んでいる。また、日々のケアについての話し合う機会を毎月の職員会議で行っている。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束や虐待防止の研修会で、権利擁護に関する情報を聞く機会がある。必要に応じて行政に事業や制度に関する情報を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約や契約内容改定時には、契約内容と重要事項の説明を分けるように丁寧に説明している。利用開始後も質問等があれば、その都度説明している。契約内容を十分に理解して頂き、安全で安心して利用して頂けるように努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアで利用者の意見や、面会時に家族からの意見・要望等を聴き、ケアプランや施設運営に反映させるよう努めている。	家族の方からは、コロナウイルスの感染リスクに気を付けながら、面会時に意見や要望等が聞かれています。また、聞き取られた意見等は、運営や支援に反映できるよう取り組んでいます。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し、日々の業務やケアでの意見や提案が出せる機会を設けている。より良い事業所運営へ繋げていけるよう努めている。	法人本部で施設長会議が月1回開催され、施設の運営等の意見を持ち帰り職員に報告しています。また、毎月の職員会議にて業務に関する意見等が聞かれています。しかし、職員個々の意見を聞く機会が十分ではありません。	日頃から管理者が職員の思いや意見を聞き取る機会を持つことを期待します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務での意見や要望を聴き取り、働きやすい職場環境づくりに努めている。責任をもって業務に取り組めるよう、職員一人ひとりに業務分担任を行って個々の努力や実績を実感できるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修委員会で年間研修計画を立て、全職員が研修に参加している。また、外部研修などの情報も、速やかに回覧し、参加できる環境を整えるように努めている。今年度はコロナ感染の影響もあり外部研修への参加は出来ていない。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染拡大防止の為、外部との交流を自粛して交流を行っていない。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で、不安なことや要望等に耳を傾けるように努め、その都度、利用者が安心して頂けるように説明して、良好な関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所を利用して頂くにあたって、利用者の不安や家族の困っている事に耳を傾けている。サービス開始後も安心して頂けるように説明し、家族との良好な関係作りに取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の意向を聴き取り、必要な支援として福祉サービス等を提案しながら、利用者の状況に合わせた利用に繋がるよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ができる内容はなるべく自分で頂くように支え、職員と利用者が対等な立場で共同生活している環境が提供できるように努めている。また、利用者同士で共同生活をしていけるような関係を構築するように支援している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日々の様子を伝え、安心して頂けるようにしている。また、変わった事があれば、すぐに家族へ連絡し、一緒に最善な方法を考えて支援していけるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により、外部との面会制限や接触の自粛があり実現できていない。面会制限が緩和、解除になった際、馴染みの方が面会できるようにし、関係が途切れないように準備している。	町内からの利用者がほとんどで馴染みの方の面会があります。コロナウイルス感染に気を付けながら短時間で窓越しで会っていただくなど可能な限り関係の継続に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの相性などを考慮して、利用者同士がコミュニケーションのとれるような席の配慮等を行ったり、その時の状態に合わせて最善の環境が築けるように柔軟な対応に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等への移行や、入院などにより契約解除になられた方も、移行先や入院先と連携し、相談事に応じるようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望等を、日々のサービス提供の中で聴き取り、表出が困難な方には利用者本位の目線で検討したり、家族と協力しながら意向の把握に努めている。	本人、家族からの過去の生活歴などの聞き取りや、管理者、計画担当者、担当職員、本人、家族で、カンファレンスし、本人の視点に立った思いや意向の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からこれまでの生活歴を聴き、日々のケアで、利用者から聴き取りをしながら、馴染みの生活環境や暮らし方などの把握に努め、サービス提供に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの役割や出来る事を理解し、共同生活の中での役割を提供し、一日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状を把握し、個人記録に残して共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族、主治医の意見を取り入れてより良いサービス提供が出来るように計画書を作成している。	計画は、担当者が管理者と共にアセスメントを行い、本人、家族の意向を聞きながら介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づきを、個人経過記録で共有している。カンファレンスや施設内会議等で情報共有し、実践や介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに沿って柔軟に支援出来るように、対応方法の情報を共有している。かかりつけ医の往診や受診結果は、医務記録で閲覧し、情報の共有を図りながら一人一人の柔軟なサービス提供への支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナ感染拡大の影響により、地域の行事も自粛されて参加はあまりできなかったが、年始のとんど行事に利用者と一緒に参加して、地域の方に顔を覚えて頂きながら、地域との関わりを楽しむ事が出来るように努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族のニーズを考慮しながら、かかりつけ医への受診や往診対応が出来るように提案し、適切な医療提供ができるように希望して頂いている。	これまでの医療機関の受診と併せ、事業所の協力病院に月1～2回往診してもらい利用者の健康管理が行われています。状態変化や結果については、その都度家族へ連絡し情報提供をおこなっています。	医療機関の往診等はありませんが、急変時の対応等が明確ではありません。今後、法人の医療職とも連携し具体的な対応について検討を期待します。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、当事業所には看護師の配置が無いため、看護師との連携は行われていない。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者の情報を医療機関へ提供し、安心して治療して頂けるように連携している。また、定期的に医療機関へ連絡をとり早期退院へ繋がるように相談を行っている。また、退院時には、医療機関での入院時の情報を聴き、職員間で情報共有する事で、退院後も安心して生活が出来るように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族や身元引受人へ重度化した時に、対応方法や方針を相談させて頂く事を確認している。現在は、重度化した方はおられない為、対応は行っていないが、重篤化される方が出てきた場合には、家族や主治医と最善の支援について相談していく。	契約時に、利用者、家族等へ重度化に関する確認をしています。実際に状態が変わった場合、家族や医療関係者、事業所で相談し、対応方法の検討ができるようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所と医療機関で医療提携を締結しており、緊急時には24時間サポートして頂けるようにしている。現在はコロナ禍により、救命救急講習の受講が出来ていない。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の立ち合いをして頂くようにしているが、コロナ禍により事業所内での独自訓練を実施している。また、毎月末に避難時に必要な備蓄品の点検を防災委員が行い、常に非常時に備えている。	火災等を想定した避難訓練を年2回実施し、最寄りの消防署立ち合いにより災害時の対応や避難について助言を頂いています。法人の関係機関の協力もあり、有事には迅速な対応がとれるよう連携が図られています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のサービス提供の中で、利用者一人ひとりの人格を尊重した声掛けや対応をするように努めている。利用者への言葉かけについては、職員間で確認し事業所内研修などで、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるように努めている。	職員は人権尊重、プライバシー保護に関する研修に参加し理解を深めています。また、日頃から言葉かけなどに留意し、利用者の尊厳が守られるように職員同士で声をかけ合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には自己決定ができるよう支援している。困難な方には選択肢を設けたり、利用者の性格等を考慮しながら自己決定出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況に合わせてできる限り適切なケアができるように努めている。その場で対応できていない事もあるが、配慮しながら対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所外の理美容を利用されていた方もいたが、コロナ禍で外出が困難なため、現在は3ヶ月毎に、理美容に来所して頂き定期的に理髪して頂いている。また、季節の変わり目にはご家族に衣替えの依頼をして、季節に合った服を入れ替えて頂き、お気に入りの服を自己選択して頂いたり、困難な方には職員と一緒に選んで頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いや食材の下処理、お盆拭きやテーブル拭き等の準備や後片付け等を職員と一緒にを行い、食事が楽しみになるような工夫をするように努めている。	食事への楽しみや関心が持てるよう、食材の買い出しに利用者と同行するよう配慮しています。また、食事の準備や片付けなど、利用者のできることを一緒に行えるよう工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量と食事量を記録し、毎日の摂取量が把握できるようにしている。また、献立を作成してバランスの良い食事が出来るように努めている。身体状況や咀嚼能力に合わせて、キザミ食やミキサー食などの食形態を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きや義歯洗浄・うがい等の口腔ケアを支援している。夕食後には、義歯洗浄剤にて夜間に洗浄・保管している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の身体機能に応じて排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を行っている。できるだけ、トイレでの排泄に繋がるように努めている。トイレでの排泄が困難な方は、居室での排泄確認を行い、できる限り利用者の負担軽減に努めている。	排泄記録により、利用者個々にあった排泄のパターンを把握しながら体調に合わせて声をかけています。なるべくトイレでの排泄に繋がるよう心がけ、利用者の状態に沿って対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事での食材や飲み物等の工夫により、便秘予防の支援を実践したり、毎日、定期的な体操で身体を適度に動かして頂く事で、排泄を促すように努めている。排便コントロールが困難な方は、主治医と相談し下剤等の医療的な対応も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体温や血圧を測定し、良好であれば定期的に入浴が出来るように努めている。入浴を好まない方に対しては、時間帯や対応職員を変更したりして臨機応変に対応している。	入浴は利用者の体調や意向を考慮しながら、週2回実施しています。入浴を好まない利用者には、タイミングや対応職員を変えながら入浴につながるように対応を工夫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムに対応し、一人ひとりのペースに合わせて休息の支援を行っている。清潔な寝具で睡眠出来るように、随時にリネン交換を実施している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は薬剤師に管理して頂いている。服薬は職員が実施している。薬剤情報も職員間で情報共有し、確認している。往診や受診時には、主治医へ状況を報告し、薬が変更になった場合には医務記録等で情報を共有し、安全な服薬に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	グループホームでの共同生活において、一人ひとりの身体能力に応じて可能な家事等の役割をもって頂けるように支援している。季節に合わせた行事への参加も支援し気分転換を図って頂けるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、全般的に外出支援への制限はあったが、人が集中する場所を避けながら、気分転換に繋がるようなドライブを実施し、できる限り参加できる方に支援ができるように努めた。	コロナウイルスの感染リスクに気を付けながら、少数でドライブを取り組むなど、外出の機会を設けながら利用者の気分転換につながるように対応しています。	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を利用者で所持し管理されている方はおられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、1名の方のご家族様が毎週1回、施設へ電話され利用者とは話をされている。職員が取次ぎの支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、不快や混乱をまねくような刺激物の掲示をしないようにし、音楽を流したり、季節感を感じられるような掲示物や、施設での思い出の写真などを掲載し、居心地よく過ごせる空間作りに努めている。	共有空間は整理されていますが、生活用品が散見されます。また、事業所内の温度や湿度が場所によって差が生じており、管理工夫が必要です。	事業所内の生活用品を利用者目線で配慮し、安心安全、プライバシー保護に繋がる対応を今後に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ鑑賞される方や会話を楽しまれる方など、気の合った方同士で過ごせるように、席の配慮や空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使い慣れていた家具等の持ち込みを勧めたりして、居心地よく過ごせる空間作りが出来るように提案している。	居室内に持ち込む品には制限が無く、利用者が安心できるよう配慮しています。利用者が使用するおしめやパット類など、プライバシーに関する品の目隠しなど、配慮を今後に期待します。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の共有スペースは、文字やマークで案内表示し、各居室には表札を掲げて分かりやすく安全に生活できるような環境づくりに努めている。		